

現土現 鉚路 ボルト作業を体験 鉚路工高2年生招き見学会

【鉚路】鉚路土現は16日、

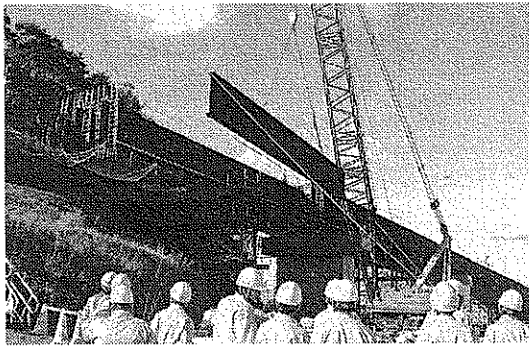
武佐大橋上部架設の現場見学会を開き、鉚路工高土木科2年生約70人が桁架設を見学したほか、ボルトの締め付けを体験した。

同土現が先月、同校生徒のインターンシップを受け入れた時に事業概要を説明。これに教頭が興味を示したため、見学会を開くこ

とにした。

武佐大橋は鉚路市武佐と鉚路町別保の1・9㍍を結ぶ鉚路環状線道路改良の1環として建設。橋長は、同土現所管の橋梁では最長となる473㍍で、全幅12・5㍍。形式は10径間連続非合成板桁となっている。

総工費は34億7100万円。現在は、宮坂建設工業



生徒は架設
つり上げられた桁を見て、歓声を上げる
弘幸現場所長が工事概要についてそれぞれ説明した。藤井太
監理技術者は橋梁の仕組みや架設方法を記載した手作りのテキストを用いて、橋梁工事を解説した。
生徒は架設

・北野組・岩倉建設共同体がペントとトラッククレーンによる架設を進めている。08年度に床版や舗装を施し、供用開始する考えだ。

見学会で野田功事業課長は「施工者の全面協力で実施することができた。見学を通じて何か得てもらえれば」とあいさつ。監督員の市川知司道路係主任が事業概要、福浦

と仮締め作業を見学。シャトルレンチでトルシア型高力ボルトの締め付けと軸力の測定も体験した。見学会終了後は施工者から記念品が贈られた。